

令和7年度採用 中学校 保健体育

教科（科目）	受験番号
保健体育	

1

- (1) 次の文章は、「スポーツ基本法（平成23年法律第78号）」（学校における体育の充実）第十七条の一部である。（ア）～（オ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものを，下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は11。

（学校における体育の充実）

第十七条

（ア）は，学校における体育が青少年の心身の健全な（イ）に資するものであり，かつ，スポーツに関する（ウ）及び生涯にわたってスポーツに（エ）態度を養う上で重要な役割を果たすものであることに鑑み，体育に関する指導の充実，体育館，運動場，水泳プール，武道場その他のスポーツ施設の整備，体育に関する教員の（オ）の向上，地域におけるスポーツの指導者等の活用その他の必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

- ① ア 国及び地方公共団体 イ 発達 ウ 技能 エ 取り組む
オ 指導力
- ② ア 国及び地方公共団体 イ 発達 ウ 技能 エ 親しむ
オ 資質
- ③ ア 国 イ 発育 ウ 技能 エ 取り組む
オ 資質
- ④ ア 国 イ 発達 ウ 技術 エ 親しむ
オ 指導力
- ⑤ ア 国 イ 発育 ウ 技術 エ 親しむ
オ 指導力

- (2) 次のア～カのうち、「第3期スポーツ基本計画（令和4年3月25日 文部科学省）
第2部 今後取り組むべきスポーツ施策と目標 第3章 今後5年間に総合的かつ
計画的に取り組む施策」に示されている内容として、適切であるものを「○」、適切
でないものを「×」とした時、その組合せとして最も適切なものを、下記の①～⑥
の中から一つ選べ。解答番号は12。

ア 多様な主体におけるスポーツの機会創出

イ スポーツ界におけるDXの推進

ウ スポーツの成長産業化

エ スポーツによる地方創生，まちづくり

オ スポーツを通じた共生社会の実現

カ スポーツ・インテグリティの確保

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
①	○	○	○	○	○	○
②	○	×	○	○	○	○
③	○	○	×	○	○	○
④	○	○	○	×	○	×
⑤	×	○	○	○	×	○
⑥	○	○	×	×	○	○

(3) 次の文章は、近年の夏季オリンピックの開催競技について述べたものである。下記の①～⑥のうち**適切でないもの**を、一つ選べ。解答番号は13。

- ① 第33回パリ大会(2024)では、新たにブレイキン、クリケットが追加競技に採用された。
- ② 第33回パリ大会(2024)では、野球・ソフトボールが競技種目として採用されなかった。
- ③ 第32回東京大会(2020)では、野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィンが競技種目として採用された。
- ④ 第32回東京大会(2020)では、スカッシュが競技種目として採用されなかった。
- ⑤ 第31回リオデジャネイロ大会(2016)では、ゴルフ、7人制ラグビーが競技種目として採用された。
- ⑥ 第31回リオデジャネイロ大会(2016)では、野球・ソフトボールが競技種目として採用されなかった。

- (4) 次のア～オの文のうち、「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き（令和6年4月 追補版）（令和6年4月 環境省・文部科学省） 1. 気候変動適応法等の改正について」に示されている内容として適切なものの組合せを下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は14。

ア 令和3年度から全国運用を開始している「熱中症警戒アラート」を、「熱中症警戒情報」として法律上位置づけた。

イ 「熱中症警戒情報（熱中症警戒アラート）」は、特定の日の暑さ指数（WBGT）の最高値が、府県予報区等内の情報提供地点いずれかで35以上になることが予測される場合に発表される。

ウ 「熱中症特別警戒情報（熱中症特別警戒アラート）」は、特定の日の暑さ指数（WBGT）の最高値が、一の都道府県内の全ての情報提供地点において35以上になることが予測される場合に、都道府県を単位として発表される。

エ 「熱中症特別警戒情報（熱中症特別警戒アラート）」の発表時間は、「熱中症警戒情報（熱中症警戒アラート）」と同様、前日の午後5時及び当日の午前5時頃である。

オ 市町村長は、「熱中症特別警戒情報（熱中症特別警戒アラート）」発表時、高齢者や諸事情でエアコンを使用できない方々が冷房の効いた空間に避難できるよう、要件を満たす地域の施設を指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）として指定できる。

① ア・イ・オ

② ア・ウ・オ

③ イ・ウ・エ

④ イ・エ・オ

⑤ ア・ウ・エ

(5) 次の文章は、「令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果（概要）」について（令和5年12月 スポーツ庁）調査結果の概要 1. 児童生徒の体力, 2. 運動習慣・生活習慣・運動意識の状況」に記載された内容の一部である。下記の①～⑥のうち**適切でないもの**を、一つ選べ。解答番号は15。

- ① 体力合計点については、令和4年度との比較では回復傾向がみられるが、令和元年度（コロナ前の調査）の水準には至っていない。
- ② 児童生徒の運動時間（体育の授業を除く）において、1週間の総運動時間が420分以上の割合は、小・中学校男女ともに、令和4年度よりも低下した。
- ③ 「運動やスポーツをすることが好き」と答えた児童生徒は、令和4年度との比較で男子は増加し、女子は低下している。
- ④ 体力合計点については、令和4年度と比較すると、小・中学校ともに回復の度合いに男女間で差がみられなかった。
- ⑤ 肥満の割合は、令和4年度との比較で小・中学校男女ともに低下した。
- ⑥ 学習以外のスクリーンタイムが「4時間以上」の割合は、令和4年度との比較で小・中学校男女ともに増加した。

(6) 次の文章は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕 2 内容 A 体づくり運動〔第3学年〕」及び「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編（平成30年7月 文部科学省） 第1部 保健体育編 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容「体育」 3 内容 A 体づくり運動〔入学年次〕」に示されている「知識」の例示である。下記の①～⑤のうち**正しくないもの**を、一つ選べ。解答番号は16。

- ① ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定すること。
- ② 定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があること。
- ③ 運動を安全に行うには、関節への負荷がかかりすぎないようにすることや軽い運動から始めるなど、徐々に筋肉を温めてから行うこと。
- ④ 運動を計画して行う際は、どのようなねらいをもつ運動か、偏りがないか、自分に合っているかなどの運動の原則があること。
- ⑤ 実生活で運動を継続するには、行いやすいこと、無理のない計画であることなどが大切であること。

(7) 次の文章は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編（平成30年7月 文部科学省） 第1部 保健体育編 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容 「体育」 3 内容 H 体育理論 1 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展」に示されている「ア 知識」の一部である。次の下線部 a～e のうち正しいものを「○」、正しくないものを「×」としたとき、「○」「×」の正しい組合せを、下記の①～⑥の中から一つ選べ。解答番号は17。

- (ア) スポーツは、人類の歴史とともに始まり、その a 理念 が時代に応じて多様に変容してきていること。また、我が国から世界に普及し、発展しているスポーツがあること。
- (イ) 現代のスポーツは、オリンピックやパラリンピック等の国際大会を通して、国際親善や世界平和に大きな役割を果たし、共生社会の実現にも寄与していること。また、ドーピングは、b フェアプレイの精神 に反するなど、能力の限界に挑戦するスポーツの c 文化的価値 を失わせること。
- (ウ) 現代のスポーツは、経済的な波及効果があり、スポーツ産業が経済の中で大きな影響を及ぼしていること。また、スポーツの経済的な波及効果が高まるにつれ、スポーツの d 高潔さ などが一層求められること。
- (エ) スポーツを行う際は、スポーツが環境や社会にもたらす影響を考慮し、e 多様性 への理解や持続可能な社会の実現に寄与する責任ある行動が求められること。

	a	b	c	d	e
①	○	○	○	○	○
②	○	○	○	○	×
③	○	×	×	○	×
④	○	○	×	×	○
⑤	×	○	×	×	×
⑥	×	×	○	○	○

- (8) 次の表は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕2 内容 B 器械運動〔第3学年〕」及び「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編（平成30年7月 文部科学省）第1部 保健体育編 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容「体育」3 内容 B 器械運動〔入学年次〕」のマット運動の主な技の例を表したものである。（ア）～（オ）に当てはまる技名の組合せとして最も適切なものを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は18。

系	技群	グループ	基本的な技 (主に中1・2で例示)	発展技
回転系	接転	前転	開脚前転 → → 倒立前転 → (ア)	伸膝前転
		後転	開脚後転 →	伸膝後転 → (イ)
	ほん転	倒立回転・ 倒立回転跳び	側方倒立回転 → (ウ) →	側方倒立回転跳び1/4ひねり(ロンダート) 前方倒立回転 → 前方倒立回転跳び
		はねおき	(エ)	
巧技系	平均立ち	片足平均立ち	片足正面水平立ち →	(オ), Y字バランス
		倒立	倒立 →	倒立ひねり

- ① ア 前方伸膝支持回転 イ 後転倒立 ウ 頭倒立
エ 頭はねおき オ 片足側面水平立ち
- ② ア 跳び前転 イ 後方浮き支持回転 ウ 倒立ブリッジ
エ 首はねおき オ 片足水平バランス
- ③ ア 跳び前転 イ 後転倒立 ウ 倒立ブリッジ
エ 頭はねおき オ 片足側面水平立ち
- ④ ア 跳び前転 イ 後転倒立 ウ 倒立ブリッジ
エ 頭はねおき オ 片足水平バランス
- ⑤ ア 跳び前転 イ 後方浮き支持回転 ウ 頭倒立
エ 首はねおき オ 片足側面水平立ち

(9) 「陸上競技ルールブック 2024年度版(公益財団法人 日本陸上競技連盟)」に示されている、リレーについての内容である。下記の①～⑤のうち**正しくないもの**を、一つ選べ。解答番号は19。

- ① バトンを落とした時、バトンが横や進行方向(フィニッシュラインの先も含む)に転がり、レーンから離れて拾い上げた後は、競技者はバトンを落とした地点に戻ってレースを再開しなければならない。
- ② バトンパスが開始され、バトンパスが完了していない状態でバトンを落とした場合には、バトンは受け手(次走者)が拾わなくてはならない。
- ③ もしバトンを落とした場合、落とした競技者がバトンを拾って継続しなければならない。この場合、競技者は距離が短くならないことを条件にバトンを拾うために自分のレーンから離れてもよい。
- ④ バトンの受け渡しは、受け取る競技者にバトンが触れた時点に始まり、受け取る競技者の手の中に完全に渡り、唯一のバトン保持者となった瞬間に成立する。
- ⑤ バトンの受け渡しの判定は、テイク・オーバー・ゾーン内でのバトンの位置のみが決定的なものであり、競技者の身体的位置ではない。

(10) 次のア～オのうち、「競泳競技規則（公益財団法人 日本水泳連盟）〔付則〕
本規則は2023年（令和5年）4月1日以降開催される競技会に適用される。」
に示されている内容として、適切であるものを「○」、適切でないものを「×」と
した時、その組合せとして最も適切なものを、下記の①～⑥の中から一つ選べ。
解答番号は20。

ア（自由形）競技中は泳者の体の一部が常に水面上に出ていなければならない。折
り返しの間、スタート後・折り返し後の壁から20m以内の距離では体が完全に水
没してもよいが、壁から20m地点までに、頭は水面上に出ていなければならない。

イ（背泳ぎ）折り返し動作中を除き、競技中は常にあおむけの姿勢で泳がなければ
ならない。あおむけの姿勢とは、頭部を除き、肩の回転角度が水面に対し90度未
満であることをいう。

ウ（平泳ぎ）スタート後、折り返し後の一かき目は完全に脚のところまで持ってい
くことができる。その間泳者は水没状態であってもよい。スタート後、折り返し後に、
最初の平泳ぎの蹴りの前にバタフライの蹴りが1回許される。

エ（バタフライ）折り返し、ゴールタッチは、水面の上もしくは下で、両手が同時に、
かつ離れた状態で行わなければならない。

オ（メドレーリレー）各競技者は次の順序によって泳がなければならない。

（1）背泳ぎ （2）バタフライ （3）平泳ぎ （4）自由形

それぞれの種目を定められた距離の4分の1ずつ泳がなければならない。

	ア	イ	ウ	エ	オ
①	×	×	×	○	○
②	×	○	○	○	×
③	○	○	×	×	○
④	×	○	×	○	×
⑤	○	×	○	×	×
⑥	○	○	○	×	○

(11) 「スポーツルール2023」(大修館)に示されている次の球技に関する競技規則の内容として下記の①～⑥のうち**正しくないもの**を、一つ選べ。解答番号は21。

- ① バスケットボールでは、自チームのプレーヤーがライブのボールをコントロールしたチームは、24秒以内にショットしなければならない。
- ② バレーボールでは、ネット上で両チームのプレーヤーがボールに触れた時は、タッチ回数をとらず、ボールを受けたチームは3回のプレーができる。
- ③ ソフトボールでは、投球動作に入るときは、身体の前または横で球を両手で持ち、2秒以上5秒以内に身体を完全に停止しなければならない。
- ④ 卓球では、トスはボールに回転を与えないようほぼ垂直方向に16cm以上投げ上げ、ボールが頂上から落下する時点で打球する。
- ⑤ ソフトボールでは、7回が終了しても勝敗が決定しない場合は、8回から促進ルール(タイブレークシステム)を適用する。
- ⑥ ハンドボールでは、ボールを支配しているチームが、わざと攻撃しないで、シュートのチャンスをつくらずチャンスがあってもシュートせずにパスをくり返すようなプレーをパッシブプレーという。このようなプレーがあれば、レフリーは予告合図を示し、攻撃側が最大3回のパスの後、シュートをしなかった場合、相手チームにフリースローが与えられる。

- (12) 次の文章は、「学校体育実技指導資料第2集 柔道指導の手引(三訂版)(平成26年2月 文部科学省) 第4章 技能指導の要点 第2節 投げ技, 抑え技等 2 投げ技」の記載内容の一部である。「技の名称」ア～オと,「技の説明」A～Eの組合せとして正しいものを, 下記の①～⑥の中から一つ選べ。解答番号は22。

「技の名称」

ア 膝車 イ 支え釣り込み足 ウ 体落とし エ 背負い投げ
オ 小内刈り

「技の説明」

- A 「取」は,「受」を右前すみに崩し,「受」の右足首を左足裏で支え,引き手,釣り手で釣り上げるようにして,腰の回転を効かせて受の前方に投げる。
- B 「取」は,「受」を右前すみに崩し,「受」に重なる様に回りこみ,さらに右足を一歩「受」の右足の外側に踏み出し,両腕と両膝の伸展を利用して「受」を前方に投げ落とす。
- C 「取」は,「受」を右前すみに崩し,「受」の右膝に,左足裏を当て,それを軸に車のように回転させて「受」の前方に投げる。
- D 「取」は,「受」を右後ろすみに崩し,左足を軸に右足の土踏まずの部分で,「受」の右足踵部分を内側から刈り,「受」の後方に投げる。
- E 「取」は,「受」を前に崩し,「受」の右腋に右肘,または右腕を入れ,「受」と重なり,両腕と両膝の伸展を利用し,右肩越しに投げる。

- ① アーA イーB ウーC エーD オーE
- ② アーA イーC ウーE エーB オーD
- ③ アーB イーA ウーD エーE オーC
- ④ アーB イーE ウーD エーC オーA
- ⑤ アーC イーA ウーB エーE オーD
- ⑥ アーC イーB ウーA エーD オーE

(13) 次の文章は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕 2 内容 G ダンス〔第3学年〕」「イ フォークダンス」の例示である。下記の①～⑤のうち**正しくないもの**を、一つ選べ。解答番号は23。

- ① ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブー（アメリカ）などのゲーム的な要素が入った踊りでは、グランド・チェーンの行い方を覚えて次々と替わる相手と合わせて踊ること。
- ② ハーモニカ（イスラエル）などの軽やかなステップの踊りでは、グレープバインステップやハーモニカステップなどをリズムカルに行って踊ること。
- ③ オスローワルツ（イギリス）などの順次パートナーを替えていく踊りでは、ワルツターンで円周上を進んで踊ること。
- ④ ラ・クカラーチャ（メキシコ）などの独特のリズムの踊りでは、リズムに合わせたスタンプやミクサーして踊ること。
- ⑤ コロブチカ（ロシア）などのパートナーチェンジのある軽快な踊りでは、パートナーと組んでスリーステップターンなどの軽快なステップで動きを合わせたり、パートナーチェンジをスムーズに行ったりしながら踊ること。

(14) 次の文章は、「がん教育推進のための教材 平成28年4月(平成29年6月一部改訂)(令和3年3月一部改訂)文部科学省」に示されている, 国が推奨しているがん検診の対象年齢と受診間隔である。下記の①～⑤のうち**正しくないもの**を, 一つ選べ。解答番号は24。

- ① 胃がん検診は, 50歳以上の男女を対象として, 2年に1回の間隔での受診を推奨している。
- ② 大腸がん検診は, 40歳以上の男女を対象として, 1年に1回の間隔での受診を推奨している。
- ③ 肺がん検診は, 30歳以上の男女を対象として, 1年に1回の間隔での受診を推奨している。
- ④ 乳がん検診は, 40歳以上の女性を対象として, 2年に1回の間隔での受診を推奨している。
- ⑤ 子宮頸がん検診は, 20歳以上の女性を対象として, 2年に1回の間隔での受診を推奨している。

- (15) 次の図は、「心肺蘇生の実践と AED の活用～児童生徒の心臓突然死ゼロを目指して～（公益財団法人 日本学校保健会 平成31年2月20日発行）」に示されている、教職員の研修と訓練の実施 一次救命処置（BLS）の手順である。図中の（ア）～（オ）に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は25。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

- ① ア 死戦期呼吸 イ 約5 c m ウ 100～120回 エ 30回
オ 2回
- ② ア 過呼吸 イ 約10 c m ウ 100～120回 エ 15回
オ 2回
- ③ ア 死戦期呼吸 イ 約5 c m ウ 60～80回 エ 15回
オ 2回
- ④ ア 過呼吸 イ 約5 c m ウ 60～80回 エ 30回
オ 4回
- ⑤ ア 死戦期呼吸 イ 約10 c m ウ 100～120回 エ 15回
オ 4回

(16) 次の文章は、排卵と月経について説明したものである。下記の①～⑤のうちその説明として**正しくないもの**を、一つ選べ。解答番号は26。

- ① 女子の卵巣では、成長ホルモンのはたらきによって約1か月に1度、卵子が出され、これを排卵という。
- ② 卵子と精子が出会い結合することを受精という。
- ③ 受精した卵子は受精卵となり、受精卵が卵管から子宮に入り、子宮内膜に着床し、母体から酸素や栄養を受けるようになることを妊娠という。
- ④ 受精が行われなければ、不要になった子宮内膜は崩れて、血液と共に体の外に出される。これを月経という。
- ⑤ 初めて起こる月経を初経という。

(17) 次の文章は、医薬品の種類と用法について説明したものである。下記の①～⑥のうちその説明として**正しくないもの**を、一つ選べ。解答番号は27。

- ① 医療用医薬品とは、医師・歯科医師が患者の病気、症状、体質などにあわせて処方箋を出し、それにもとづいて薬剤師が調剤するものである。
- ② 要指導医薬品とは、処方箋はいらず、薬剤師が対面で情報を提供したり説明したりすることが定められているものである。
- ③ 一般用医薬品とは、症状などを自分で判断して薬局などで購入して使用するもので、その成分によって販売のしかたなどが分かれるものである。
- ④ 食前とは、胃に食べ物が入っていないときのことで、食事をする前20分以内のことである。
- ⑤ 食後とは、胃に食べ物が入っているときのことで、食事をした後30分以内のことである。
- ⑥ 食間とは、食事と食事の間のことで、食後約2時間のことである。

- (1) 次の文章は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 第3章 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画の作成」に示されている，障害のある生徒への配慮の例の一部である。（ア）～（オ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものを次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は28。

- 見えにくさのため活動に制限がある場合には，不安を軽減したり安全に実施したりすることができるよう，（ア）や動きを事前に確認したり，仲間同士で声を掛け合う方法を事前に決めたり，音が出る用具を使用したりするなどの配慮をする。
- 身体の動きに制約があり，活動に制限がある場合には，生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できるよう，用具やルールの変更を行ったり，それらの変更について仲間と話し合う活動を行ったり，必要に応じて（イ）の活用を図ったりするなどの配慮をする。
- リズムやタイミングに合わせて動くことや複雑な動きをすること，ボールや用具の操作等が難しい場合には，動きを理解したり，自ら積極的に動いたりすることができるよう，動きを視覚的又は（ウ）に変更したり（エ）したりして提示する，動かす体の部位を意識させる，操作が易しい用具の使用や用具の大きさを工夫したりするなどの配慮をする。
- 試合や記録測定，発表などの状況の変化への対応が求められる学習活動への参加が難しい場合には，生徒の実情に応じて状況の変化に対応できるようにするために，挑戦することを認め合う雰囲気づくりに配慮したり，ルールの（オ）や場面設定の簡略化を図ったりするなどの配慮をする。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|---------|---|------|---|-----|
| ① | ア | 活動場所 | イ | 補助用具 | ウ | 音声信号 | エ | 簡素化 |
| | オ | 縮小化 | | | | | | |
| ② | ア | 活動場所 | イ | 補助用具 | ウ | 言語情報 | エ | 簡素化 |
| | オ | 弾力化 | | | | | | |
| ③ | ア | 活動場所 | イ | I C T機器 | ウ | 言語情報 | エ | 簡素化 |
| | オ | 縮小化 | | | | | | |
| ④ | ア | 活動内容 | イ | I C T機器 | ウ | 音声信号 | エ | 簡便化 |
| | オ | 弾力化 | | | | | | |
| ⑤ | ア | 活動内容 | イ | 補助用具 | ウ | 言語情報 | エ | 簡便化 |
| | オ | 弾力化 | | | | | | |

- (2) 次の文章は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 第3章 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画の作成」に示されている，情報手段の積極的な活用についての一部である。
（ア）～（オ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものを次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は29。

保健体育科においても，各分野の特質を踏まえ，（ア）等にも配慮した上で，必要に応じて，コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し，学習の効果を高めるよう配慮することを示している。

例えば，体育分野においては，学習に必要な情報の収集やデータの（イ），課題の発見や解決方法の選択などにおけるICTの活用が考えられる。また，保健分野においては，健康情報の収集，（ウ）の発見や解決方法の選択における情報通信ネットワーク等の活用などが考えられる。

なお，運動の実践では，（エ）として活用するとともに，効果的なソフトやプログラムの活用を図るなど，活動そのものの低下を招かないよう留意することが大切である。

また，情報機器の使用と（オ）との関わりについて取り扱うことにも配慮することが大切である。

- | | | | | |
|---|-------------------|---------|--------|---------|
| ① | ア 情報モラル
オ 健康 | イ 蓄積・保管 | ウ 健康課題 | エ 積極的手段 |
| ② | ア 情報モラル
オ 運動 | イ 管理・分析 | ウ 生活課題 | エ 積極的手段 |
| ③ | ア 情報リテラシー
オ 運動 | イ 蓄積・保管 | ウ 健康課題 | エ 補助的手段 |
| ④ | ア 情報モラル
オ 健康 | イ 管理・分析 | ウ 健康課題 | エ 補助的手段 |
| ⑤ | ア 情報リテラシー
オ 運動 | イ 管理・分析 | ウ 生活課題 | エ 補助的手段 |

- (3) 次の文章は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 第3章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 健やかな体」に示されている，体育・健康に関する指導についてである。（ア）～（オ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものを次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は30。

学校における体育・健康に関する指導を，生徒の発達の段階を考慮して，学校の（ア）を通じて適切に行うことにより，健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に，学校における（イ）並びに体力の向上に関する指導，安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については，保健体育科，技術・家庭科及び特別活動の時間はもとより，各教科，（ウ）及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また，それらの指導を通して，家庭や（エ）との連携を図りながら，日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し，生涯を通じて健康・安全で（オ）生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

- ① ア 教育活動全体 イ 運動の奨励 ウ 学級活動 エ 地域社会
オ 活力ある
- ② ア 教育活動全体 イ 食育の推進 ウ 道徳科 エ 地域社会
オ 活力ある
- ③ ア 教育計画全体 イ 食育の推進 ウ 道徳科 エ P T A
オ 生き生きとした
- ④ ア 教育計画全体 イ 運動の奨励 ウ 道徳科 エ P T A
オ 生き生きとした
- ⑤ ア 教育活動全体 イ 運動の奨励 ウ 学級活動 エ 地域社会
オ 生き生きとした